

輝く若手教員！ 「初任者指導のススメ」の開発・実践

◆ 所属・提案者（◎代表者）

桶川市立桶川東小学校

◎田所 周・原 和弘（桶川市立桶川西小学校）

ねらい

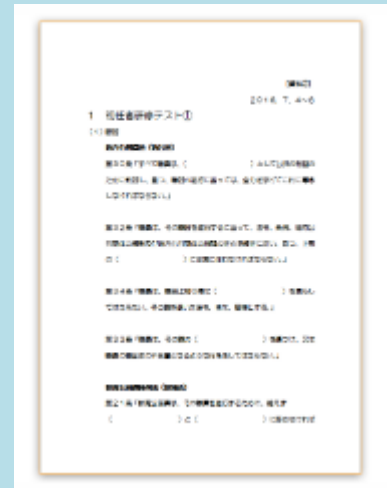
埼玉県教職員の大量採用時代が到来し、本校でも、毎年2名が新採用教員として配属されている。県民から児童の学力向上を期待されることや保護者からの様々な要望がある中で、即戦力となる若手教職員の育成が急務となっている。

そこで、初任者に対して、効果的に「教師となって第一歩」を活用した指導を行うだけでなく、自校・他校の先生方との円滑な連絡調整をし、初任者への具体的な指導を継続することで、即戦力となる若手教員を育てる取組を行った。

実践内容

①「教師となって第一歩」のレジュメ作成・テストの実施

- ・週に1回の研修では、必ず「教師となって第一歩」の内容をまとめたレジュメを作成し、それをもとに初任者の指導を行った。
- ・毎学期最後の研修日に、研修のまとめとしてテストを実施した。



2□頑張りました！

- 桶川小学校の運動会全体練習での一場面です。
- 香川先生が観礼台の上、上杉先生が観礼台の下で、児童に「桶川音頭」の指導を一緒に行ってました。子どもたちにとって、わかりやすい指導だったと思います。



□□いろいろな場面で、精一杯頑張る初任者の先生方を、今後よろしくお願い致します！

②「初任研だより」の作成

- ・自校・他校の先生方と円滑な連絡調整を行えるように、月に2回程度、「初任研だより」を作成・配布した。これにより、初任者の学んでいることや取り組んでいることを多くの先生方に知っていただくことができた。

③拠点校指導教員による授業実践

- ・初任者の学級を使い、授業実践を行った。これにより、授業の流し方・発問方法・板書方法などを直に学ばせることができた。



実践時期・期間

- レジュメの活用…4月～3月
- 初任研だよりの作成…4月～3月
- 拠点校指導教員による授業実践…4月・5月・9月・1月

【成果】

- 「教師となって第一歩」のレジュメを作成・活用したことで、初任者の教師としての仕事内容の理解・法規理解・教育活動への理解が深まった。またレジュメが手元に残ることにより、内容の復習を効果的に行うことが出来た。
- 「教師となって第一歩」のテストの作成・実施を行ったことで、初任者の研修における理解度を把握することができ、テスト後の研修内容に生かすことが出来た。
- 初任研だよりの作成・配布により、自校・他校の先生方との繋がりが生まれ、初任者指導に多くの先生方が関わっていただけようになった。また、各校の先輩の先生方が初任者の悩みを聞き、アドバイスをするなど、良い雰囲気を醸成することにもつながった。
- わかりやすい授業を目の前で見せ研修させることで、授業の流し方・発問方法・板書方法などを直に学ばせることが出来ただけでなく、その後の研修中に授業についての質問時間を取ったことで、初任者の授業力を飛躍的に高めることが出来た。

【課題】

- 初任者がレジュメに頼ってしまう場面が、時折見受けられた。自分で考え、学び、メモを取らせる力も育てていく必要があると感じた。
- 同一市内拠点校指導教員同士で、今後更に連絡調整を行うことで、よりよい初任者指導が行えると感じた。

失敗しないための方策

- 初任者に寄り添い、気持ちや考えを汲み取り、信頼関係を構築していく努力をする。
- 初任研だよりを継続的に発行し、初任者研修について各校教職員の共通理解を図る。

他校で導入するポイント

- 「教師となって第一歩」を活用し、わかりやすい研修を心掛ける。
- レジュメやたよりを作成・配布し、形に残る研修を心がける。
- 自校・他校の先生方と連絡を密にし、初任者の指導に対して意見交換を行える時間を作るようにする。

セールスポイント

- 初任者の教育活動への理解が深まる！
- 初任者の児童に対しての学習指導力が身に付く！
- 初任者の研修の理解度を把握することができる。
- 多くの先生方と協力して、初任者指導にあたることができる。
- 初任者指導で、迷うことがなくなる！

- 同一市内拠点校指導教員で連絡を密にし、初任者への研修の進捗・指導内容の確認等を行えば、さらに高い効果が得られると考える。
- 初任者研修のレジュメを、教育時事問題等も取り入れたものへと改良していく。
- 初任者研修のレジュメ・初任研だより共に、カラー印刷を行う。

外部有識者からのコメント

具体的な内容で、とても分かりやすいものになっている。さらなる発展形として、負担のない範囲で、レジュメを初任者自身に作成させることもいいのではないかな。

初任者指導は、初任者だけのものではなく、同校に勤務する教員全体が自身のキャリアを意識して取り組む形に発展させられると、さらに良いものとなってくる。

一方で、初任者にとっての負担感にも配慮が必要である。



こうすればより高い効果が得られる方策